

大会審判員の心得

市内大会の試合を行うにあたり審判を行う方については、以下の内容を熟知し、実践願います。

【審判員】

- 球審については、必ず連盟に登録されている審判員が行うこと。
- 塁審については、連盟主催の審判講習会を受講した指導者でも可とする。
但し、各大会決勝戦については、連盟審判員に限る。

【服装】

- 連盟に登録されている審判員については、指定の審判服等を着用。
- 登録審判員以外は、審判帽・連盟服・ズボン（黒、又は紺色）を着用。
但し、「4年生教育リーグ戦」、及び「送別大会ブロック戦」の塁審については、チームユニホームでも可とする。
- サングラス（ミラータイプは避ける）着用は可とする。

【試合準備】

- 審判は、試合開始時間の1時間までには集合すること。
- 第1試合を担当する審判は、試合に向けたグラウンド作り（ライン引き等）を実施。
- 球審は、試合開始時間の30分前になったら、チームキャプテンを集合させ、先攻・後攻を決める。
- 試合前に審判員でミーティングを行い、責任範囲、動き等の確認を行うこと。

【確認事項】

- テリトリー（球審・塁審の受持ち範囲）の確認
- 打球の追い切り（4人制の場合）、カバー体系の確認
- 同調事項（タイム・ポーク・インフィールドフライ）の確認
- 試合の特別ルール（グラウンドルール・4年生試合のポーク無し等）の確認
- その他、注意事項の確認

【試合進行】

- 球審は、試合開始時間の5分前に両チームをダッグアウト前に整列させる。
- 審判員は、グラウンドへ礼し、球審の掛け声でホームベース後方へ進み、球審は、試合開始を宣告する。（例）「●●大会●回戦を始めます。礼！」「試合を始めます。礼！」など
※審判員の整列順は、ホームベース後方に球審、球審の右側へ1塁塁審、球審の左側へ2・3塁塁審が並ぶ。（試合開始整列時の球審の掛け声は、「さあ、行こう！」「さあ、行きましょう！」など、「集合！」は試合終了時の掛け声になります。）
- 球審は、守備側のサークル横に立ち、準備投球をカウントする。
（初回、及び投手交代時は7球、その他は3球とする。・・・2024年度改正予定）
塁審は、テリトリーのグラウンド状況を確認した後、待機位置（1・3塁は、外野手後方のインフィールド内（ラインから3m付近）、2塁（4人制）は、本塁－2塁の延長線の外野手後方）へ移動、「ワン・モア・ピッチ」後に捕手が2塁送球したと同時に、駆け足で定位置へ移動する。
- 球審が「プレイ」を掛けるタイミングは、投手がプレートに入った時点（オン・ザ・ラバー）で宣

告する。

但し、打者が打撃姿勢を取っていない状態ではプレイを宣告しない。

- ボール交換やベース清掃時は、必ず「タイム」を宣告して行う。

但し、無走者状態でプレイに影響しない場合では、「タイム」宣告を省略できるが、ボール交換した場合は、必ず「プレイ」宣告を行うこと。

- 守備に就く側の塁審（1・3塁）は、選手の追い出しを行い、球審が選手交代等で準備投球をカウントできない場合は、その補助を行う。

また、攻撃側の塁審（1・3塁）は、投手板の清掃を行う。

但し、前イニング終了時に2塁塁審が内野に位置していた場合は、2塁塁審が投手板の清掃を行う。

（4人制）

- 塁審は、走者無しの場合、「スタンディング・セットポジション」で打者へ正対し、投球に併せ「ルック」の姿勢を取る。

- 塁審は、走者有りの場合、投手がプレートに入った時点（オン・ザ・ラバー）に併せ「ハンズ・オンニーズ・セットポジション」で投手に正対する。

- 1塁塁審が内野へ位置する場合、2塁ベースから約5m1塁寄り、1・2塁ラインから1.5m内側へ位置する。

また、3塁塁審が内野へ位置する場合、2塁ベースから約5m3塁寄り、2・3塁ラインから1.5m内側へ位置する。

- 2塁塁審は、走者無し、及び走者3塁に位置する場合を除き、内野へ位置（2塁ベースから約5m1塁寄り、1・2塁ラインから1.5m内側）し、1・2塁ラインと平行にスタンスを取り、顔のみ投手に正対する姿勢を取る。（4人制）

- 審判員は、原則、選手が使用する道具類（ボール・バット・キャッチャー用具など）には触れてはいけない。

但し、プレイの妨げになると判断した場合は、この限りではない。

- 球審は、投手交代をスムーズに行うため、大会本部からの指示に基づき、投手の投球数が60球（四年生以下は50球）に達したことを通知する。

この通知については、必ずプレイを止め、両チームへ通知すること。

- 球審は、5回を終了した時点、若しくは次のイニングで制限時間を超えることが明らかな場合は、「最終回」宣告を行う。

また、後攻チームがリードした状態で後攻チームの攻撃中に制限時間を超えた場合、次の打者を「最終打者」宣告し、当該打者の打撃が完了した時点で試合終了を告げる。

- 試合終了時は、球審の「集合！」の掛け声により選手を整列させ、審判員も開始時の位置へ集合し、球審の「試合を終わります。ゲーム！」宣言で試合を終了する。

【その他、注意事項】

- ボールから目を離さないこと。（確実な判定を行うため）
- しっかりと止まってルック姿勢を取り、確実にプレイを確認すること。
（見て判定していることをアピール）
- コールを急がない。（ダブルジャッジをしないため）
- 自信を持って判定する。（迷いを見せない）

碧南少年野球育成連盟
審判長 杉浦文男